## 制前560年(界栄華大史)

｢東の猿に加えて(まつりごとで)述べるとしよ。火付之親国(火付国)は我が国の東部に位置しており、我が民も住むが多くが秭𥝱(漢字を使うシラタオのこと)の民で構成されておる。まず我が国の驚異にはなりえまいが澄胤(中国の武将)から聞いておるさらに東の武有之大国(ムー大陸。伝説上の島。当時前鐘は本当にその島が存在すると考えられていた)を占有されるのは恐れ多いことだ｣

(空白の400年)

## 制前 80年

「東にいくつかの国が連なり連合をなしているライヒアがある。外書を都としまつりごとを行うその国は人およそ189万人と非常に少ない。我が国の驚異にはなり得ないだろう…(中略)

南方にある我々より高度な文明を持つ国家、南蛮国(恐らくコーリプスのこと)が我々の脅威になるだろうということは間違いないと言って良い。そのためには火付国といった小国とて仲間にして対抗せねばならない。」

## 59年(謁見録)

「比布院国(火付国)は代々統一王朝をもち、なにより注目すべきは高度な治水技術である。異国との貿易のやり方を熟知し、加えて独自の通貨を作るまでになったこの国は我々の朝貢国から離脱するつもりではないかと考える。」

## 158年 (西方大陸について)

「西の大陸(恐らく翼州ではなくアトランタ)について語らせていただくと、その大陸には多くの国家が存在しており、ある時南方より来たる鸞人(アトランタ人)によって統一され初地域をアトランタ人が支配し緩やかな連合が作られた。およそ8年前のことと聞く。それこそ鸞国でありかれらはそれを雷緋(ライヒ…重層性に根差した、弾力性のある複雑な政治体を的確に表現するための名辞で、帝国とも王国とも人民とも訳すことのできない微妙かつ独特な概念である)という。」

## 257年 (東の国に関する簡潔な報告)

「東の国については存在だけは陛下もご存知でしょう。しかし、近年ではいくつかの島を開拓し領土を広めていると言います。我が国の都を港に移すと言うのはかの国の脅威に晒されることと同義であり漢都は内陸に建設すべきだと慎ましやかに提言いたす次第であります…」

## 89年 (近隣史)

「西方の地は資源が豊富であり多くの民が国家またはそれに準ずる組織を形成せずに暮らしている。それ故に蛮族に襲撃されることが多く今は良くてもこの土地の存在がより多くの人々に知られたら恐ろしいことになるだろう…特に南蛮国だ。

…鸞国での話だが、どうやら西方に超大陸が存在すると聞く。その名も翼州。その地には主に髑人(ドリア人)や水人(アクアート人)、亜人(アース人)などが住む。文明こそ劣るが、発展が出来る土壌はあると見る。」

これ以降、外国に関する書物が大量に書かれるため重要なものを紹介。

## 254年 (我々的歴史)

「南蛮国と我が国の間には広大な土地が存在する。それは主に遊牧民の住処として機能し我々にとって最も脅威になる相手である。特にカッタウは近年頻繁に農耕県に入りつつある。武力で彼らに勝るものは南蛮国(コーリプス)を除いて他にいるだろうか(いや、いない)」

## 422年 (題名なし)

「西方の土地は酷く枯れ果てそこに住むものは皆身体を悪くするという呪われた地である。土地は貧しくそこに住むしかない旧民は哀れだ。しかし、我々の領土に住まわせるとあとが怖い。このことは南蛮、火付、カッタウ、シラタオ、汗国(ハーフ)と協力して対処して行く必要があるだろう。」

## 798年

「王朝が崩壊してから半年が経ったが未だに混乱は収まる様子を見せない。大国としての誇りはもう失われた。今はタダ、シラタオ(実際はカッタウでした)の軛として生きるだけだ。」

## 年代不明 題名なし 作者不明(恐らく1789年)

「自由国としての歴史を歩み出した我々は遂に蛮族(カッタウやシラタオのこと)を追い出すことに成功した。これから我々はコーリプスや火付国に追いつく必要がある。古来より地政学的に危険な立地であることは自覚している。それを受け入れた上で多民族と競合していくしかないのだろう…」